

高原町文化財調査報告書 第6集

たぶ こ やま
榑 粉 山 遺 跡

(旧遺跡名 狭野第3遺跡)

— 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要 —

2000. 3

みや ざき けん にし もろ かた ぐん
宮 崎 県 西 諸 県 郡
たか はる ちょう
高 原 町 教 育 委 員 会



榑粉山遺跡遠景

高原町文化財調査報告書 第6集

たぶ こ やま
榑 粉 山 遺 跡

(旧遺跡名 狭野第3遺跡)

— 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要 —

2000. 3

宮 崎 県 西 諸 県 郡
高 原 町 教 育 委 員 会

序 文

埋蔵文化財の保護・活用につきましては、日頃より深い御理解をいただき、厚く御礼申し上げます。

このたび高原町教育委員会では、平成11年度から12年度にかけて、県営圃場整備事業（担い手育成型）に伴って「榊粉山遺跡（旧遺跡名 狭野第3遺跡）」の発掘調査を実施することとなりました。今回は、平成11年度分の発掘調査の成果の概要を掲載しています。

今回の調査では、縄文・平安時代の土器や石器が大量に出土したほか、平安時代の畠の畝や中世の陥し穴等の遺構も多数出土し、高原町の歴史を考える上で、大変有意義な成果を残すことができました。

今回の調査で得た様々な成果が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待いたします。

最後になりましたが、この発掘調査にあたり、御理解をいただきました土地所有者の方々をはじめ、御指導・御援助をいただきました関係諸機関並びに地元の方々に、心から御礼を申し上げます。

今後とも、本町の文化財行政に対する御指導・御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成12年3月

高原町教育委員会

教育長 正入木 久 男

例 言

1. 本書は、平成11年度に実施した、県営圃場整備事業（担い手育成型）狭野地区2工区における、榊粉山遺跡（旧遺跡名 狭野第3遺跡）の平成11年度分についての、発掘調査概要報告書である。

2. 本調査は、西諸県農林振興局の委託を受けて、高原町教育委員会が主体となり、平成11年11月15日から平成12年3月24日まで実施した。

3. 調査関係者は、次の通りである。

調査主体 高原町教育委員会

教育長

正入木 久 男

社会教育課 課長

増 田 賢 一

係長

篠 原 弘 二

調査員 社会教育課 主事

大 學 康 宏

調査指導 宮崎県教育委員会 文化課

4. 本書に掲載している地形図・遺構図などの図面については、全て有限会社ジパングサーベイが作成した。写真については、空中撮影を株式会社スカイサーベイに委託した他は、大學が撮影した。

5. 本書の執筆・編集は大學があたった。

6. 本書で使用した方位は、全て磁北である。

7. 調査の記録類、出土遺物等は、全て高原町教育委員会で保管している。

第 I 章 はじめに

第 1 節 遺跡の位置及び地理的現況（第 1 図）

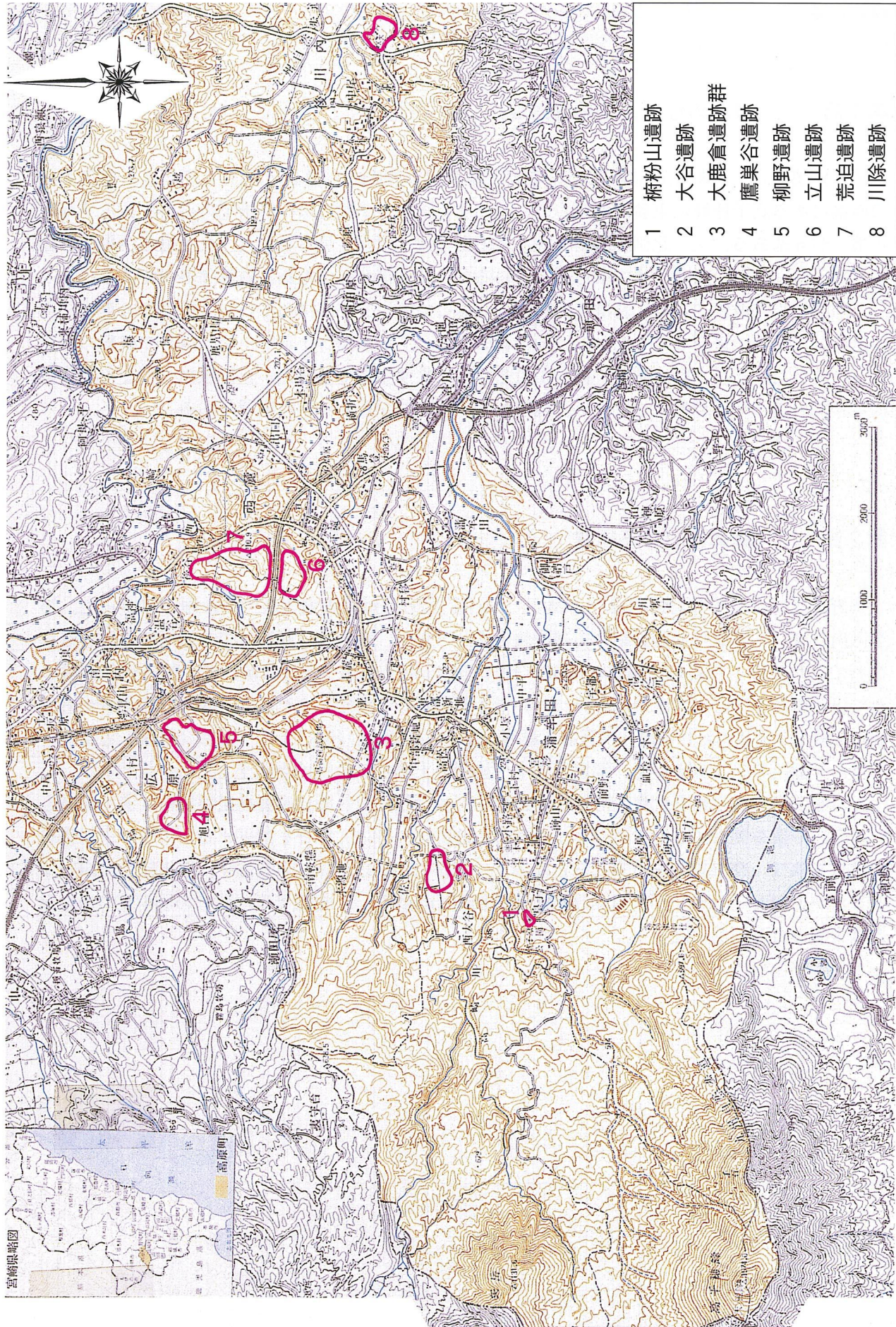
榊粉山遺跡は、宮崎県西諸県郡高原町大字蒲牟田字狭野の、標高は約300m前後、霧島連山の南端にある高千穂峰の東麓に位置している。すぐ上の皇子原には、県指定の史跡である「高原古墳」が6基ある。又、北側の河川を挟んだ山側では、墳丘と見られる大きな土饅頭が幾つも存在している。地元の伝承では古墳と言っているが、調査例がないため、詳細は不明である。

今回調査した遺跡一帯は、昔は「榊粉山（たぶこやま）」と呼ばれていた。榊の皮と葉は、主に粉にして線香の材料となったため、終戦後までは、工場が幾つかあったが、線香の材料の変化により廃れた、という話である。榊粉山もそれらに供する山であったが、終戦後まもなく、開拓によって大きく地形が変化したため、現状から旧地形を想像するのは困難である。

第 2 節 調査にいたる経緯

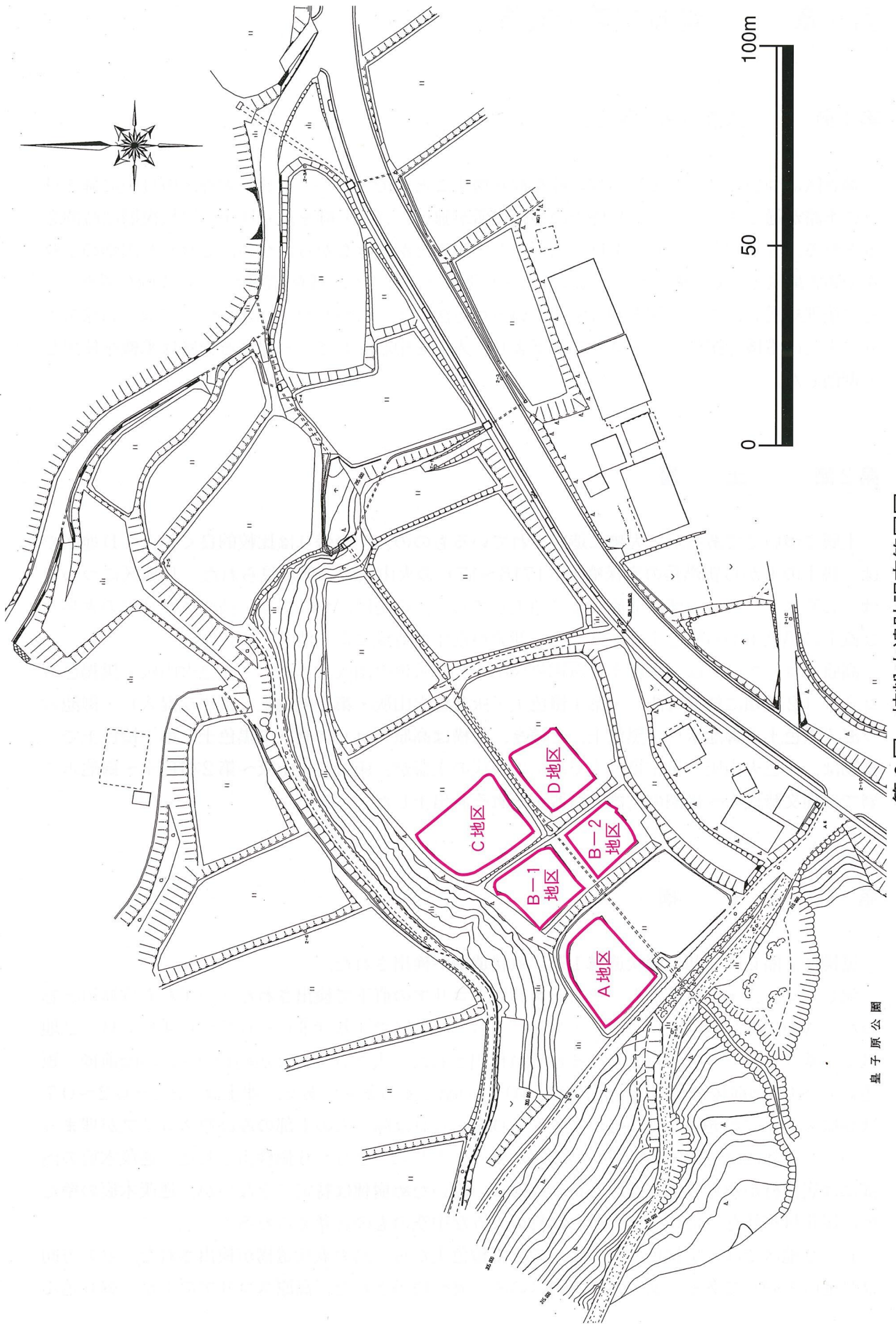
狭野地区では、平成12年度より、地区一帯、約120万㎡を圃場整備する計画が挙げられた。事業区内には、『高原町遺跡詳細分布調査報告書』（以下、報告書と呼称）で8箇所の遺跡が登録されていたため、町農村整備課と協議の上、平成11年1月から5月にかけて、報告書に掲載されている遺跡を中心に、未周知部分についても試掘調査を実施したところ、詳細分布調査から漏れた遺跡も発見された。特に、狭野第3遺跡（報告書掲載時の名称、以下「榊粉山遺跡」と改称）では、2箇所のトレンチから、縄文時代中～後期の土器片が約800点出土した。

それを受けて再び県文化課と町社会教育課、町農村整備課と西諸県農林振興局の4者で協議した結果、事業を実行する上で基点となる榊粉山遺跡は、その大部分を削平するために、記録保存の措置を執り、発掘調査を行うこととなった。遺跡の面積は約9000㎡あり、単年度では調査することができないため、平成11年度に山側の約5000㎡を、平成12年度に残りの約4000㎡を発掘調査することとなった。



- 1 柿粉山遺跡
- 2 大谷遺跡
- 3 大鹿倉遺跡群
- 4 鷹巣谷遺跡
- 5 柳野遺跡
- 6 立山遺跡
- 7 荒迫遺跡
- 8 川除遺跡

第1図 遺跡位置図及び周辺地形図



皇子原公園

第2図 榊粉山遺跡調査範囲図

第Ⅱ章 発掘調査の成果

第1節 調査方法（第2図）

調査区については、（1）田畑の畦を取り壊すことができない、（2）調査区の真中に備え付けの水路が通っている、（3）廃土の移転場所が無い、（4）畦を取り壊すと現状復旧に時間を取られる、等の理由により、1枚の調査区とすることができなかつたため、それぞれ田畑の1枚を1調査地区として、便宜上、山側よりA～D地区と名付けた。調査方法は、一旦片側を調査し、その後埋め戻し、もう片側を調査するといった方法により行われた。掘削については、高原スコリアまでは重機で掘削し、スコリア直下より、人力を中心として、一部無遺物層は重機を使用して掘削した。

第2節 土 層

土層についてであるが、大幅に造成されているものの、土の残りは比較的良く、A・D地区では、耕土の下から新燃岳の享保噴火（1716～17）の火山灰の一部が見られた。B地区については、高原スコリアの上部が造成により消失しており、C地区については、高原スコリアの大半及び直下の黒色土から橙色土にかけての一部分が近年の造成により消失していた。

高原スコリアの下は、黒色土・黄褐色火山灰・青灰色火山灰・黒色土・赤色火山灰・黒褐色スコリア（2種類に細分可能）・第1橙色土・灰黄色火山灰・第2橙色土（黄ボラ混入）・御池ボラ混入黒色土、御池ボラ、黒色土、と続き、遺構は高原スコリア直下の黒色土と第1橙色土で、遺物は、赤色火山灰～第1橙色土では主に古代の土器が、灰黄色火山灰～第2橙色土～御池ボラ層では縄文時代中～後期の土器・石器がそれぞれ出土した。

第3節 遺 構

遺構は、陥し穴8基、溝状遺構1基、畝状遺構が検出された。

陥し穴は、A・B地区から、それぞれ高原スコリアの直下で検出された。いずれも狩猟用と思われる、A地区で2基（SC-06・07）、B-1地区で4基（SC-02～04）、B-2地区で2基（SC-08・09）、それぞれ検出された。大きさは、長辺約170～230cm前後、短辺約45～60cm前後の長方形で、深さは40～90cmとまちまちである。埋土は、SC-02～07は高原スコリアが充満しているが、SC-08・09は陥し穴の上部のみ高原スコリアが埋まっていた。底部には逆茂木痕と思われる穴があり、1基につき5～6個検出された。逆茂木痕の内部には炭化材が残存していた。心材が残っていないため樹種は特定できないが、逆茂木痕の壁だけに炭化材が残存していることから、竹のような中空のものと考えられる。

B-2地区では、黒褐色スコリア下の第1橙色土から、畝の畝状遺構が検出された。畝の方向はD地区と同じである。又、この調査区のみ、溝が検出された。高原スコリアの上から掘り込ん

でいるため、中世以降と思われるが、新燃岳の享保噴火の火山灰が造成により削られているため、具体的な時期は不明である。溝の底には砂や粘土が堆積していたが、遺物は含まれていなかった。この段階では自然か人工かは判断できなかった。

C地区では、他の調査区の遺構検出面で精査したが、遺構は検出されなかった。

D地区では、黒褐色スコリア下の第1 橙色土から、調査区の全面に畝の畝状遺構が検出された。複数回耕作されたと思われるが、この畝が火山灰に埋没してから、木の根などによる攪乱を受けているので、切合い等は明確ではなかった。

第4節 遺物

遺物は、A～D地区全てから検出された。時期は、縄文時代中～後期と古代が中心である。その間の弥生・古墳時代の遺物は全く出土していない。

A地区では、第1 橙色土から下がすでに古代・縄文時代の包含層となっており、第1 橙色土直上から縄文土器が出土した。又、第2 橙色土中からも、縄文土器及び石鏃が出土した。

B-1地区では、第1 橙色土で古代の土器が1～2点出土し、第2 橙色土から、縄文土器が10点程出土した。

B-2地区では赤色火山灰～第1 橙色土から比較的多く古代の土器が出土した。坏・高台付椀が中心で、畝から高台付椀が出土した。流れ込みか祭祀に伴うものかは不明である。

C地区では、赤色火山灰～第1 橙色土にかけて、古代の土器が大量に出土した。出土量も、約600点と、他の地区に較べて圧倒的に多い。出土層位は、赤色火山灰中からはほんの少しで、その下の黒褐色スコリア中と第1 橙色土直上面からの出土が殆どである。器種は、坏・高台付椀・甕の3種類で、その中には黒色土器（A類）も含まれていた。

その下の灰黄色火山灰～第2 橙色土～御池ボラ層にかけては、縄文時代中～後期の土器・石器が大量に出土した。土器だけで約1万点出土している。特に、御池ボラが混入した黒色土からが多い。上記の土層は、断面では追えるものの、平面ではかなり上下しており、明確に土層で年代が分けられるような感じではなく、この時期に相当引っ掻き回されていると思われる。

第2 橙色土からは磨消縄文や市来式・北久根山等の後期の土器が中心に出土している。

御池ボラの中からはそれよりやや時期の古い型式の土器を中心に、ある程度完形に近い状態で出土している。又、この辺りから無文の口縁部が多くなる。又、石器については、磨製石斧や切目石錘・石皿の他、黒曜石剥片・石鏃等も出土している。磨製石斧は、完形品が少なく、刃部や基部・胴部断片が多い。

D地区では、B地区と同じく、第1 橙色土から古代の土器が数点出土した。出土量はA・B-1よりは多い。その下の第2 橙色土からは、縄文土器が約200点出土した。

第Ⅲ章 ま と め

第1節 現時点での遺跡の概観

今回の発掘調査では、遺構は、陥し穴8基、遺物は、縄文時代中期から後期の土器が約1万点、石器・石が約500点、古代の土器が約600点出土した。

陥し穴については、町内では、平成6年度から8年度にかけて宮崎県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われた「荒迫遺跡」、平成10年度に同じく宮崎県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われた「大鹿倉遺跡」で検出された以外に今のところ例はない。又、狭い調査区で8基検出し、そのうちA・B地区に集中し、C・D地区では全く検出されなかった。特にB地区では6基という、非常に密な状態で検出された。

畠の畝状遺構については、調査区の真中を通る水路の南側でのみ検出され、北側では、その痕跡すら見出すことはできなかった。C・D地区では、水路から南側（D地区）が下り斜面になっている。その斜面を中心に畠を耕作し、北側の幅10～20mの平坦地で生活していたものと思われる。ただ、B-2地区では、土師器と畠がセットになって出土している。D地区で土師器は殆ど見られない。

古代の土器については、その殆どがC地区から出土している。時期は、9世紀後半から10世紀前半にかけてのものと思われる。町内で古代の土器が出土している遺跡は、発掘調査の成果からは、立山遺跡・荒迫遺跡・大谷遺跡、詳細分布調査の成果からは、鷹巣谷遺跡・柳野遺跡など、いずれも、広大な台地に営まれた遺跡であるが、遺跡数自体はごく少数である。

縄文土器については、約1万点という、これまでの調査例の中では、前代未聞の出土量であった。完形品になるものも多く、又、「おはじき型」の土製品なども多く含まれている。これまでの成果から見ると、かなり異質の感がある。現時点では、詳細は不明で、今後詳しく検討したい。

以上、現時点の成果からは、当遺跡は、縄文時代中～後期・平安時代にはそれぞれ集落が営まれている一方で、平安時代には町内の他所と同じく寄進系荘園に伴うと思われる開発が行われた。しかし、その後の度重なる霧島山の噴火により人が離れ、鎌倉時代辺りでは狩猟を行うような山林となっていた。そういった中で御鉢の噴火（高原スコリア）により周囲一体が壊滅した、と推測することができる。18世紀初頭の新燃岳の噴火と12～13世紀の高原スコリアの間の土層が少ないため、御鉢噴火後はあまり人の手が入らなかったものと思われる。

平安時代には、この辺りでは、霧島連山を中心とした修験道が盛んになり始め、天徳3年（959）頃からは、比叡山の僧侶、性空がこの辺りに次々と道場を起し、霧島六所権現の基礎を造ったといわれている。当遺跡は、高千穂峰にかなり近い所に位置しており、町内の他所ではこのような高所に集落遺跡は確認されていないため、前述の修験者集団と、何らかの関わりのある集落ではなかったかと推測される。

圖

版



A地区 全景



B-1地区 全景

図版
2



D地区 全景



土層堆積状況（A地区）

} 亨保噴火火山灰

} 高原スコリア



高原スコリア除去後状況（A地区）



陥し穴検出状況（A地区）



陥し穴断ち割り状況（A地区）

図
版
4



高原スコリア除去後状況（B-1地区）



陥し穴埋土状況（B-1地区）



陥し穴断ち割り状況（B-2地区）



高原スコリア除去後状況（B-2地区）



畝状遺構検出状況（B-2地区）



畝状遺構完掘状況（B-2地区）



高原スコリア除去後状況（C地区）



縄文土器出土状況（C地区）



縄文土器出土状況（C地区）



高原スコリア除去後状況（D地区）



畝状遺構検出状況（D地区）



畝状遺構完掘状況（D地区）



出土土師器 (C地区)



出土繩文土器 (C地区)



出土繩文土器 (C地区)



出土繩文土器 (C地区)



出土繩文土器 (C地区)



出土繩文土器 (C地区)



出土繩文土器 (C地区)



出土石器 (C地区)

報告書抄録

フリガナ	タブコヤマイセキ					
書名	梡粉山遺跡					
副書名	県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概					
巻次	巻次					
シリーズ名	高原町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第 6 集					
編集者名	大學 康宏					
発行機関	高原町教育委員会					
所在地	〒889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899番地					
発行年月日	2000. 3. 31					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
タブコヤマイセキ 梡粉山遺跡	タブコヤマイセキ 高原町大字 カマタササノ 蒲牟田字狭野 47-1 外	31° 54' 19" 付近	130° 57' 53" 付近	19991115 } 20000324	5,000 m ²	圃場整備
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
生産遺跡他	縄文時代 平安時代 鎌倉時代	畝状遺構 陥し穴 溝状遺構	石器 縄文土器 土師器	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器は1万点以上出土、石器や土師器等も多数出土した。 ・中世の陥し穴が8基検出された。 		

高原町文化財調査報告書 第6集

たぶ こ やま
楯 粉 山 遺 跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要

2000年3月

編集・発行 宮崎県高原町教育委員会
〒889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899
TEL 0984-42-2111

印刷 (株)長崎印刷
西諸県郡高原町大字後川内18-2